津冬都君
丁・高田小2年）

産業創生

ルポ 挑戦の現場

気圧調整で健康に

共和建商（白河市）

乗り合いバスのような一室に入る。「調圧ルーム」という。「健康にいい」と、常連客が腰を下ろして新聞や雑誌を読んだり、おしゃべりを楽しんだりしている。程なく体がぽかぽかしてきた。

建設機械器具の販売やリース を手掛ける白河市の共和建商は調圧室「進盟（しんめい）ルーム」の製造を一手に引き受ける。いわき市に本社がある進盟ルームの川上進盟会長（七七）が二〇〇二（平成十四）年に開発した。二〇一〇年に調圧装置・調圧法で初の特許を取得した。改善を続け、アメリカや中国、台湾などでも国際特許を得た。二〇一八年度東北地方発明表彰で発明奨励賞を受賞した。

進盟ルームでくつろぐ利用者

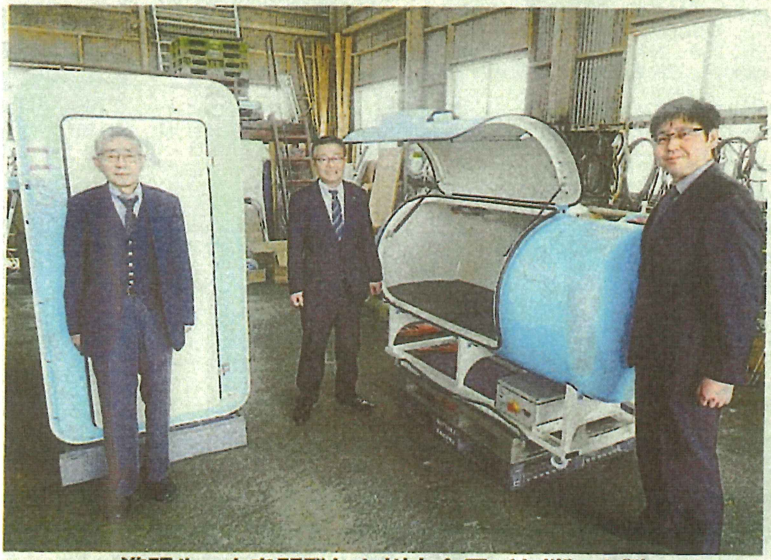
共和建商の増子公夫会長（六七）は東日本大震災が起きた二〇一一年、本社隣に白河店を開いた。「自分が試して健康になった。多くの人に広めたい」との思いからだ。二〇一三年には製造も始めた。郡山市、矢吹町、浅川町の企業の協力を得て、横になれるカプセルタイプなど家庭用の小型のルームも造る。

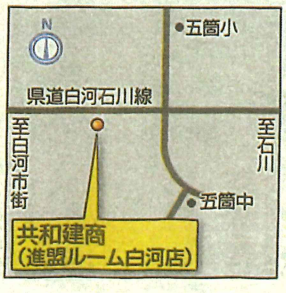
調圧ルームは、気圧を下げて元に戻すことを五十分間で数回、繰り返す。気圧を下げた時は旅客機の機内と同じ程になる。排気口から空気を抜いて少しずつ気圧を下げる。吸気口は全開とはならず、少しずつ新鮮な空気が入るよう調整されている。両社が何年もかけて安全を最優先に工夫を重ねている。

昨年九月、「ヒト治癒力向上装置及び装置の作動法」で新たに特許を取得した。福島大との共同研究も始まった。気圧が変化する状態が体に与える影響を調べ、運動選手の競技力向上や疲労回復などにつながるか検証する。

増子会長は「福島の発明と物づくりの技術を国内、世界に発信し、震災以降の福島を元気にしたい」と意気込む。進盟ルームの川上陽介社長（四〇）も「ヒトが本来持っている自然な治癒力で健康を目指してほしい」と話している。

（白河支社長・古川 雄二）


進盟ルームを開発した川上会長（左端）と製造を手掛ける増子会長（中央）、川上社長



メモ

- 設立＝1976（昭和51）年
- 社長＝増子国安
- 従業員＝45人
- 住所＝白河市田島舘ケ崎4の1
- 電話＝0248(29)2231